

公益活動報告書(市民活動実績報告書)(令和6年度)

(宛先)岡崎市長

令和7年4月27日

団体名 岡崎市難聴・中途失聴者の会

代表者 羽田野 裕子

構成員 23人(※令和7年4月1日時点の構成員数)

団体の目的:団体の会則・規約に定められた団体の目的を記入してください。

この会は岡崎市及びその周辺の市町村の難聴・中途失聴者の福祉の増進、文化・教養の向上を図る活動を通じて、難聴・中途失聴者の社会参加を促進し、暮らしよい社会環境への改善を目指して福祉の向上に寄与することを目的とする。

私達の団体が掲げる目的を実現した活動を、以下の項目に従って報告します。
なお、記載内容を一般に公開することに同意します。

■1 団体の活動目的達成に向けて、今年度はどのような活動をしましたか。(公益活動に限る)

活動日 又は期間	場所	公益を受けた ものは?	受益者 (会員以外) 人数※1	活動内容
9月29日	友愛の家	市民	30名	第17回市民講座「聞こえない悩み解決へ」講師は耳鼻科医。第1部「難聴との戦い」第2部相談会・交流会
・11月10日 ・11月30日	・根石小学校 ・常磐南小学校	学区市民	・100名 ・70名	学区地域防災訓練:当会からブースに参加し学区の方へ災害時避難行動要支援者として啓発活動
3月16日	ウイングタウン	市民	家族連れ 70名位	社会福祉協議会主催福祉イベント「心もバリアフリっちゃおう」の中で「筆談・音声認識ブース」啓発活動
実施校7校	市内小・高校 東高・光ヶ丘 六ツ美南・北野 豊富・城南・梅園	生徒・児童 及び教員	550名	福祉実践教室・福祉教育プログラム子どもたちへコミ方法と障害理解を伝え、交流する

※1 公益を受けたものが「人」ではない、数が把握できない場合は記載がなくてもよい。<ex.自然環境>

■2 前項1に基づき、1年間の団体活動で岡崎市(広く市民社会一般)に何をもたらしましたか。

外見でわからない聴覚障がい者は社会の中で困っていることが沢山ある。障がいは社会が作ると言われる時代になった。どんなことで困っているのかを社会側が知る場を作って啓発していくことが当会の任務である。学校や防災訓練、市民講座開催などへ参加することで市民の方々の意識を変えることができた。

■3 今年度の活動の公益性を自己評価し、付随する質問にお答えください。

①公益性の度合いを自己評価してください(数字に○をつけてください)

高い ← (5) 4 3 2 1 → 低い

②上記の評価をした理由をお書きください。

交流や話をさせていただくことで、市民の方々の意識が変わり少しづつであるが、社会が変わったと感じられた。